

# 京都大学人文科学研究所共同研究実績・活動報告書

( 3 年計画の 1 年目)

## 1. 研究課題

「システム内存在としての世界」についてのアートを媒介とする文理融合的研究

Research in ‘totally-systematized world’: media-art, humanities, and natural science

## 2. 研究代表者氏名

三輪眞弘

Masahiro Miwa

## 3. 研究期間

2019 年 04 月 - 2022 年 03 月 (1 年度目)

## 4. 研究目的

現在、われわれ人類は人為的エネルギーに支えられた高度テクノロジーの只中で生きており、一見「自然」や「環境」や「心」と見えるものすら、システムなしに存立し得ない状況に至っている。本研究はこの認識から出発する。そして生命や心さえ含む地上の全存在が巨大システムに組み込まれていくこの時代の相貌につき、「サイバネティクス」「テクノロジー」「メディア」「情報学」を切り口とし、芸術創造に携わる申請者が媒介となることで人文学系と自然科学系の知見の総合をはかり、学知の認識を紙媒体だけでなくビデオアートや音楽作品の制作という感性的次元において発信する可能性を探る。これが本研究の目的である。つまり本研究は ①全人類的な問題についてのアートを媒介とする文理融合研究の実践モデルを示し、かつ ②学知を感性メディアを通してより直接的に社会へと接続しようとするものである。なお「システム」についての申請者の考えについては『三輪眞弘音楽藝術 全思考 一九九八～二〇一〇』(アルテスパブリッシング、2010 年)を参照されたい。

### 研究目的

We are now living in a totally systemized, high-technology world which is completely dependent on electrical energy, and even things that we regard as ‘Nature’ or the ‘Environment’ or the ‘Human Spirit’ could not continue to exist without this system. In this project, characteristics of the contemporary world will be researched in terms of cybernetics, technology, media and information theory. The overall purpose of this research is to synthesize knowledge of both natural

science as well as the humanities, and to create media-based art works inspired by this research.

## 5. 本年度の研究実施状況

本年度は計7回の研究会を開催し、延べ88名の参加者を得た(うち女性10名、理科系研究者15名)。また8月の研究会では三輪および佐近田によるメディアアート「フレディとレナの原フォルマント」が試演され、これを思考実験モデルとして参加者の間で議論が行われ、9月および2月には本研究会における議論に基づいた三輪による作品が初演された。理系研究者(生命科学および情報科学)も定期的に研究会に参加するなど、アートを媒介として理系および文系研究者が一堂に会し、テクノロジーの問題を議論しつつ、得られた認識をアートの形で社会発信するという当初の目的はおおむね達成されている。また9月の三輪作品は中部新聞に紹介記事が出るなど、社会的反響も得られつつある。

## 6. 研究成果の概要

なし

## 7. 本年度の研究実施内容

2019-04-09 「話したい人」と「見せたい人」と「やってみたい人」——人文工学としてのアートの可能性を考える 発表者 岡田暁生

2019-06-14 ビッグ・データ入門 発表者 瀬戸口明久

2019-08-14 人工音声の現象学 発表者 佐近田展康 名古屋学芸大学  
「機械」の自律性とテクノロジーの論理 発表者 佐近田展康 名古屋学芸大学

2019-08-15 「三輪眞弘を理解するために:要約表」説明 発表者 山崎雅史 株式会社N  
TTデータセキスイシステムズ

2019-10-05 人新世の人類学 — 滅びゆく世界のなかで生きるということ 発表者 田辺明夫

2019-12-13 人新世の人類学 人新世におけるアートと哲学 — 「人間以後」における思考と実践 発表者 篠原雅武 人間・環境学研究所

2020-01-24 製作検討会

## 8. 共同研究会に関連した公表実績

共同研究会に関連した公表実績 2019年9月14日 サラマンカホール ぎふ未来音楽展 2019 ガラ・コンサート&シンポジウム(三輪眞弘:箏と風鈴のための「もんじゅはかたる」(世界初演) 中部新聞に紹介記事) 2020年2月29日 TRANCE MUSIC FESTIVAL 2020 -the body- 豊中市立芸術ホール (三輪眞弘監修)人体の TRANCE「人体音楽祭～身体なき声なき身体～」

## 9. 研究班員

所内

岡田暁生、瀬戸口明久、佐藤淳二、藤井俊之、上尾真道

学内

学外

松井茂(情報科学芸術大学院大学)、佐近田展康(名古屋学芸大学)、山崎雅史(株式会社NTTデータセキスイシステムズ)、岩崎秀雄(早稲田大学)

## 10. 共同利用・共同研究の参加状況

区分	機関数	参加人数				延べ人数			
		総計	外国人	大学院生	若手研究者	総計	外国人	大学院生	若手研究者
所内	0	12 (0)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	31 (0)	0 (0)	0 (0)	7 (0)
学内	1	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	4 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
国立大学	1	2 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	21 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
公立大学	1	7 (2)	0 (0)	3 (1)	0 (0)	24 (10)	0 (0)	3 (1)	0 (0)
私立大学	1	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	3 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
大学共同利用機関法人	0	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
独立行政法人等公的研究機関	0	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
民間機関	0	2 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	5 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
外国機関	0	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
その他	0	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
計	4	25 (2)	1 (0)	3 (1)	1 (0)	88 (10)	0 (0)	3 (1)	7 (0)

※( )内には、女性数を記載

11. 本年度 共同利用・共同研究を活用して発表された論文数  
なし

12. 費目の 30%を超える大幅な変更があった場合の変更理由  
なし

13. 次年度の研究実施計画

次年度の研究実施計画 4月にUCDとの国際共同ワークショップにおいて、三輪真弘のメディアアート作品『フレディの墓』を例にとりながら、歴史家にとってのポストルース時代の歴史学の可能性／不可能性について議論する。これはアートを志向モデルとして人文学の学術的議論を行うという試みの一環として計画されている。また9月にサラマンカホール、10月に人文研アカデミーにおいて、本研究班での議論をベースとして製作された三輪作品を上演しつつ、理系および文系研究者がテクノロジーについて討議する予定である。主題となるのは「システム」であり、これは文系理系を問わず今日の喫緊の人類学的課題に、アートを媒介として取り組むことを目的としている。通常の研究会としては、情報科学および生命科学の研究者からの発表を含む、計7回を予定している。

14. 次年度の経費

国内旅費	研究会参加費	開催回数 7 回 国内出張旅費(延べ 36 人)	支出予定額 (720,000 円)
	一般旅費	国内出張旅費(延べ 3 人)	支出予定額 (160,000 円)
海外旅費	渡航旅費	海外出張旅費(延べ 0 人)	支出予定額 (0)
	招聘旅費	招待人数(延べ 0 人)	支出予定額 (0)
謝金(講演謝金、研究協力謝金、その他の謝金)			支出予定額 (120,000 円)
消耗品等経費			支出予定額 (0)
その他			支出予定額 (0)
合計			1,000,000 円

15. 研究成果公表計画および今後の展開等  
なし